平成二十四年度 活動報告

平成二十四年度「肥後医育塾」年間テーマ「女性のための医療」を開催

常任理事（事業担当）　遠藤　文夫

県民一人ひとりが豊かで健康的な生活を送れることを目指して、（公財）肥後医育振興会、（一財）化学及血清療法研究所および熊本日日新聞社の主催で、**年間テーマに「女性のための医療」**を取り上げ、三回の市民公開セミナー（第四十六回から第四十八回）をホテル熊本テルサで開催するとともに、毎回、熊本日日新聞紙上で「肥後医育塾特集」を二ページに亘って内容を紹介しました。

女性は一生を通じて、思春期、妊娠、出産、更年期などさまざまなライフステージを経るとともに、それに伴いホルモンバランスも大きく変わります。その影響からか、女性の罹患率が高い疾患や精神的な問題も見受けられるようです。セミナーでは、女性本人はもちろん、パートナーや家族としてどのように向き合うのかという観点から、「メンタルヘルス」、「リウマチ膠原病と自己免疫疾患」、「女性のがん」について考え、それぞれの基礎知識について専門医の先生方から分かりやすく解説をしていただきました。

総合司会は遠藤文夫肥後医育振興会常任理事（熊本大学大学院生命科学研究部教授）がつとめました。

このうち、第四十六回は七月十五日（日）に熊本テルサで開催いたしました。テーマは「女性のためのメンタルヘルス」といたしました。

女性は一生を通して「思春期」をはじめ、「妊娠、出産」では自分ひとりの身体ではない体験をし、子育てや家事に注力し、それが落ち着いた頃には「更年期」を迎えるなど様々な変化を体験します。そのなかで、身体的な変化だけでなく、気持ち的に不安になったり、悩んでしまったりすることもあるようです。そこで今回のセミナーでは、年齢や経験に伴う気持ちの変化、またそれを乗り切るためのヒント、相談窓口などについて学ぶとともに、女性本人はもちろん、パートナーや家族としてどのように向き合うのかなども含めて、四名の先生方に詳しくお話を伺いました。講演では池田学先生（熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学分野教授）に座長をお願いしました。

まず、特別講演として**東京女子医科大学附属女性生涯健康センター所長・教授の加茂登志子先生**から「女性と『うつ』との微妙な関係～月経前症候群、産後うつ、更年期のうつを乗り切るコツ～」と題して、女性と「うつ」の切っても切れない関係、ストレスに揺れ、月経前に揺れ、産後に揺れ、そして更年期にも揺れる女性のこころは、女性ホルモンが体調や気分に影響を与えており、うつのサインを見逃さず、人生を乗り切るコツについて講演をいただきました。

次の講演は、**医療法人山田会八代更生病院副院長の安川節子先生**から「若い女性の不安と気分変動」と題して、日常生活に困る不安は、不安障害と呼ばれ、理由なく動悸がしたり、息苦しくなったり、人前で緊張したりなど不安は気分変動を伴いやすくなるということへの対処法などについて講演をいただきました。

講演の二番目は、**熊本市こころの健康センター所長の井形るり子先生**から「行政窓口における女性の相談」と題して、窓口相談者の約九割が女性であり、最近の相談状況について講演をいただきました。

最後の講演は、座長をお願いした**熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学分野教授の池田学先生**に「介護とうつ」の演題で、認知症介護の多くに妻、娘、息子嫁などの女性が関わっており、それに伴うストレスの解消法のヒントなどについて講演をいただきました。

約四百人の来場者があり、講演終了後のパネルディスカッションでは、講演者全員が登壇し、あらかじめ寄せられた質問と会場からの質問に講演者が答える形で行いました。内容を、八月二十七日の新聞紙面に掲載しました。

第四十七回は、十月二十日（土）に熊本テルサにおいて、「女性のための医療～リウマチ膠原病と自己免疫疾患～」と題して、熊本膠原病研究会の協力を得て開催しました。

女性は一生を通してホルモンバランスが大きく変わります。その影響もあってか、女性の罹患率が相対的に高い疾患について、「関節リウマチ」、「シェーグレン症候群」、「全身性エリテマトーデス」などを取り上げ、それらの病態や治療法などについて、三名の先生方に詳しくお話を伺いました。講演では**河野文夫先生（国立病院機構熊本医療センター院長）**に座長をお願いしました。

最初の講演は、**熊本森都総合病院リウマチ膠原病内科部長の中村正先生**から「関節リウマチについて」と題して、関節リウマチは、我が国での患者数が七〇～一〇〇万人で、三十～四十歳代の働き盛りの女性（男性の三～四倍）に発症することが多い病気であり、始まりは、関節に起こるが、全身性の疾患であること、「病気の最初こそが最も大事」ということを、最近の治療の変遷、病気の成り立ちなどを通して講演をいただきました。

講演の二番目は、**九州大学大学院病態修復内科学分野准教授の堀内孝彦先生**から「口のかわき、目のかわき～知っておきたいシェーグレン症候群の知識～」と題して、口のかわき、目のかわきにかかわる病気、唾液のこと、なみだのことなどについての知識や治療のことについて解説をいただきました。

講演の最後は、**順天堂大学医学部膠原病内科教授・順天堂大学医学部附属順天堂医院院長の髙碕芳成先生**から「女性の膠原病～全身性エリテマトーデス～」と題して、全身性エリテマトーデスでは、自分の身体を攻撃する異常な免疫により病気が進んでいくことが知られており、何故男性に比較して女性が一〇倍も高い頻度で起こるのかなどについて分かりやすく講演をいただきました。

約五百人の来場者があり、講演終了後のパネルディスカッションでは、講演者全員が登壇し、あらかじめ寄せられた質問と会場からの質問に講演者が答える形